



子どもへの取り組み

少しの知識を持っているだけで、
救える命がどんどん増えていく。



子どもたちは未来を創る大切な存在。
不慮の事故で亡くなる子どもの数を
少しでも減らしていくため、
継続的な啓発活動を行っています。



救命講習の様子



子ども向けに特化した講習が行われます



東京救急協会が作成
している啓発ツール

不慮の事故予防のためのセミナーを開催

子どもの死亡原因の中で最も多いのが「不慮の事故」です。私は母親でもあります。防ぐことのできる不慮の事故で、子どもを亡くしてしまった親の悲しみは想像が付きません。本当につらいことだと思います。つらい思いをする方の数を少しでも減らしたい。そのために必要なことが「学ぶ」ことではないでしょうか。特別な技術を持っていなくても、何が危ないのか、何をすれば助かる可能性が高まるのか知っていれば、救える命はたくさんあります。

財団法人東京救急協会は、親子や学生のほか保育士や保健師といった子どもに関わる職業に就く方を対象に全国で「セーフキッズセミナー」を開いています。子どもの事故防止法と子どもに対する応急手当を学ぶもので、J&Jは活動をサポートしています。私も子どもと一緒に参加させていただきました。セミナーに出ると、普段子どもと緊密に接している大人や親たちは、暮らしの中でのような危険があるのかを理解することができます。また、子どもたちは自分の体が大切なものであることを実感します。一緒に参加したある保育士の方は「これまで応急手当を学んだことがなかったので本当に有意義だった」と振り返っていました。

セミナーで教えていただいたことの中で印象に残っているのが「チェーン オブ サバイバル (救命の連鎖)」という言葉です。事故の発生時に、まずその場にいる私たちが救急車を呼び、応急手当をする。その後、救命士がケアする。そして病院で適切な処置が行われる。その場その場で全員が力を尽くせば助けられる命は増えていく。「助かる命は全力で助ける」。これはセミナーで救命士の方がおっしゃっていたことです。当たり前のことなのかもしれませんが、現役の救命士の力強い言葉にとても心を打たれました。万が一のときは、私自身もチェーンの一端を担っていきたいと思います。

同じように、企業としての務めを着実に果たしていきたくて考えています。事故予防・応急手当のセミナーは頻繁に行われていますが、子どもを対象としたセミナーはそれほど多くはありません。J&Jも活動の継続をお手伝いしていきたいですね。

子どもサブコミッティー

ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
メディカル カンパニー

古川 裕子

左から清武直志さん、古川裕子

助け合いの輪を広げていく

財団法人東京救急協会
指導課長 清武 直志さん



財団法人東京救急協会は、救命講習の開催、応急手当指導者の育成などを行う団体です。悲しいことですが、事故で命を亡くしてしまう子どもは毎年かなりの数に上っています。もしものときに備えて少しでも多くの方に講習に参加してもらい、応急処置を学んでほしいと思っています。身につけた技術は人のために使うもの。皆が技術を持つことで、お互いを助け合うことができる。助け合いの輪をさらに広げていきたいと考えています。

